

## ■ベルギー：周辺国の脱石炭加速化で電力不足が拡大の見通し

ベルギーの送配電会社 Elia は 2019 年 6 月 28 日、2025 年の原子力全廃に伴い不足する発電設備容量の見通しを 360 万 kW から 390 万 kW へと上方修正したことを明らかにした。現状、電力需要の約 50～60%を原子力発電で賄う同国では、政策による 2025 年の原子力全廃に向けた代替電源の確保が急務となっている。今回の見通し修正は、周辺国で加速する脱石炭火力の動きに鑑み、今後、電力調達の不確実性が高まることや、困難化することを考慮に入れたもの。さらに、隣国の脱石炭火力の加速の影響により、2025 年の国内原子力全廃を待たずして、2022～2025 年の間にも 100 万 kW 超の容量不足が発生し、電力需給面での対策を余儀なくされることも新たに明らかにした。同社は、40 年を超えた原子炉の運転期間の延長許可、容量メカニズムによる制度的な補償など、連邦政府の組織的な関与による制度の早期確立なくしては、国内の安定供給維持に重大な影響を及ぼすと警鐘を鳴らしている。